

第96期

2019年 1月 1日から
2019年12月31日まで

株 主 通 信

サッポロホールディングス株式会社

証券コード 2501



SAPPORO

01

【トップメッセージ】

従来の事業構造を大きく変え、
次なる成長ステージに
つなげていきます。



03

【特集1】

「グループ経営計画2024」の施行について

財 務 目 標

2024年事業利益

グループ連結

300億円

売上収益成長率

2%以上(年平均)

売上収益事業利益率

5%以上

海外売上収益成長率

1.6倍(2019年比)

財 務 方 針

・投下資本に対する収益性・効率を重視しつつ、営業キャッシュ・フローと同等程度の投資を行い、収益力の強化を図ります。
・有利子負債水準に対する資本や収益力のバランスを踏まえ、NET D/EレシオやEBITDA有利子負債倍率を重要指標とし、現状の格付水準が維持可能なレベルを確保します。

株 主 還 元 方 針

・株主の皆様への適切な利益還元を経営上の重要政策と位置付けて、業績や財務状況を勘案して安定した配当を行います。
・配当水準については、本中期経営計画の企業価値向上を進めながら、配当性向やDOE⁽¹⁾を勘案して参ります。なお、特殊要因にかかると一時的な損失や利益計上等により、「親会社の所有者に帰属する当期利益」が大きく変動する場合には、その影響を考慮して配当金額を決定することがあります。

05

【特集2】

サッポログループ
サステナビリティ方針を策定



サッポログループ トピックス

09

【酒類事業】

「サッポロ GOLD STAR」新発売
「GRANDE POLAIRE WINEBAR OSAKA」オープン

12

【食品飲料事業】

カップ入りスープを製造する仙台工場が竣工・稼働開始
シンガポールで“本物の日本ブランド”を意識した無糖茶展開

13

【不動産事業】

コミュニティを醸成する新しいワークプレイス誕生

14

【研究開発】

睡眠の質に関わる機能性表示食品「スイッチ乳酸菌」商品化へ





従来の事業構造を大きく変え、
次なる成長ステージにつなげていきます。

代表取締役社長

尾賀 真城

株主の皆様には、平素よりグループ事業へのご理解とご支援を賜りありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

私たちは、次なる成長ステージにつなげていくため、2020年を期初とする5ヶ年計画「グループ経営計画2024」を開始することといたしました。新経営計画のもと、各事業をもっと利益体質に変えていきたいと考えています。グループのさらなる飛躍と持続的な成長にご期待いただくとともに、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「グループ経営計画2024」 テーマは「変わる」。

市場環境やお客様の生活スタイルの変化を考えると、従来の事業活動を継続するだけでは対応が不十分であると判断しました。また、事業として「やめるもの」を明確にすること、そして「やるべきこと」は徹底して「やりきること」を明確にし、本年より新たな経営計画を開始することに踏み切りました。

新中期経営計画を一言で言うと「変わる」をテーマとしています。

ホールディングスの組織は極力小さくし、事業に関わる全ての機能は事業会社に移管します。変化が激しいからこそチャンスだと考えており、徹底して無駄を省き、機動力を発揮できるコンパクトな事業軸主体の組織構造に変更します。これによってお客様への価値創造につながる仕組みに変革したいと考えています。

一貫したマーケティング戦略を グローバルで展開します。

酒類事業

海外でのサッポロブランドが拡大しています。国内のビール工場は6つですが、海外の小さな工場まで含めると12拠点*になりました。海外の事業が特別なものではなくなってきました。サッポロビール社は、国内酒類事業会社ではなく、海外まで含めて一貫したマーケティングを展開してまいります。

日本国内では、ビール類の酒税が一本化され2026年にはビール・発泡酒・新ジャンルの酒税が同額となる予定です。ビールが買いやすい状況になることから、あらためてビールに集中して取り

組み、お客様の楽しさ、喜びにつながる商品・サービスを続々と創造していきます。

※ 自社生産拠点の数です。

食品飲料事業

特に食品の分野に注力し、新たな生活シーンや新たな生活スタイルにつながる食のイノベーションを実現できる体制へとシフトしていきます。

不動産事業

恵比寿、札幌、銀座という当社にゆかりある地域でのまちづくりを継続しながら、新たな戦略投資に挑戦し、稼ぐ力を強くしていきます。

サッポログループ独自の取り組みで サステナビリティ経営を。

地球環境や社会課題を解決していくことで社会価値を創造し、それを通じて経済価値を創出することが社会と事業の持続的な成長の実現につながると考えています。サッポロらしく身近なところから人々の笑顔のために取り組んでいきます。

新しい経営計画を着実に遂行してまいります。

「グループ経営計画2024」の施行について

当グループは、創業150周年の2026年をゴールとする長期経営ビジョン「SPEED150」の下、「第一次中期経営計画(2017～2020年)」を展開してきました。しかし、従来の組織体制及び事業活動の継続では、市場環境やお客様の消費スタイル変化のスピードへの対応が不十分であると判断し、当該中期計画を見直すこととしました。新たなグループ経営計画は、各事業の課題や成長スピードの違いを考慮し、2020年を期初とする5ヶ年計画とします。



基本方針

本業集中と強靱化

- ・ビール事業への経営資源集中
- ・低収益事業の縮小・撤退と、食をはじめとする成長分野へのシフト

シンプルでコンパクトな企業構造の確立

- ・小さい本社・わかりやすい組織に再編、BPR・DX^{*}の推進
- ・サッポロホールディングス社は、ガバナンス・事業会社支援・経営資源配分機能に特化
- ・事業会社に事業推進の機能全てを移管し、機動力を発揮

※ BPR=「ビジネスプロセス・リエンジニアリング」の略。既存の組織や制度を抜本的に見直し、業務プロセスを再設計すること。

DX =「デジタルトランスフォーメーション」の略。IT技術を活用し、ビジネスモデルそのものを変えること。

グローバル展開の加速

- ・海外事業を事業会社に全て移管し、一貫したブランドの世界戦略を展開
- ・北米事業拡大への投資
- ・アジアパシフィック事業の拡大加速
- ・グローバル人財の育成

サステナビリティ経営の推進

- ・良質原料を自ら作り上げる仕組みなどをはじめとした、社会的価値と経済的価値の両立
- ・恵比寿、札幌、銀座というゆかりある地域のまちづくり推進
- ・時代の要請に即した経営の透明性と公正性の進化

財務目標・財務方針・株主還元方針

財務目標	2024年事業利益 グループ連結 300 億円	売上収益成長率	2%以上(年平均)
		売上収益事業利益率	5%以上
		海外売上収益成長率	1.6倍(2019年比)
財務方針	<ul style="list-style-type: none"> 投下資本に対する収益性・効率を重視しつつ、営業キャッシュ・フローと同等程度の投資を行い、収益力の強化を図ります。 有利子負債水準に対する資本や収益力のバランスを踏まえ、NET D/EレシオやEBITDA有利子負債倍率を重要指標とし、現状の格付水準が維持可能なレベルを確保します。 		
株主還元方針	<ul style="list-style-type: none"> 株主の皆様への適切な利益還元を経営上の重要政策と位置付けて、業績や財務状況を勘案して安定した配当を行います。 配当水準については、本中期経営計画の企業価値向上を進めながら、配当性向やDOE*を勘案して参ります。なお、特殊要因にかかる一時的な損失や利益計上等により、「親会社の所有者に帰属する当期利益」が大きく変動する場合には、その影響を考慮して配当金額を決定することがあります。 <p>※ DOE=配当額/資本額(親会社の所有者に帰属する持分合計)</p>		

グループ体制の再編

持株会社	事業セグメント	事業会社	管轄する関連会社
サッポロホールディングス	酒類	サッポロビール	国内子会社
		サッポロライオン	海外子会社*1 <・サッポロUSA・スリーマン・サッポロベトナム・サッポロヨーロッパ>
	食品飲料	ポッカサッポロフード&ビバレッジ	国内・海外子会社
		サッポログループ食品*2 2020年7月1日設立予定	国内子会社
	不動産	サッポロ不動産開発	海外子会社 <ポッカ> 国内子会社 <・ポッカクリエイト・フォーモスト ブルーシール・神州一味噌>
			国内子会社

※1：サッポロUSA・スリーマンは2020年4月1日付でサッポロホールディングスよりサッポロビールへ移管。

※2：事業軸を主体に国内外の食品飲料事業のポートフォリオ構築を機動的に行い、新たな生活シーンやスタイルにつながる食のイノベーションの実現に向けて、2020年7月1日(予定)に新会社を設立し、ポッカサッポロフード&ビバレッジとの2社体制で臨んで参ります。

サッポログループ サステナビリティ方針を策定

気候変動、食品ロス、海洋プラスチックごみ、地域活性化といった社会課題に対する事業を通じた取り組みを「サステナビリティ経営」として力強く推進するため「サッポログループ サステナビリティ方針」を策定しました。また、この方針のもとに進めるサステナビリティ経営戦略「Sustainable Smile Plan」を展開します。

世界中のサッポログループ従業員と、ステークホルダーとのパートナーシップのもとに、社会価値と経済価値の創出を両立させ、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

サッポログループ サステナビリティ方針

大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。

サッポログループは、

人々の幸せな笑顔のために、地球環境や社会の課題に向き合い、取り組みます。

自然の恵みの源泉である大地こそ最も重要なパートナーと捉え、

商品・サービスの開発から、お客様が手にしたその後までの全ライフサイクルにおいて、

思いをひとつにするステークホルダーとの協働・共栄に励み、

原点からの発想を大切に、知恵を尽くして持続可能な笑顔の創出に挑みます。

こだわりの「ものづくり」と、地域に根ざした「まちづくり」、

そして「世界の笑顔の開拓者たれ」の誓いを胸に、

地球上のあらゆる地域における「笑顔づくり」を目指します。



SAPPORO



Sustainable Smile Plan

サッポログループ サステナビリティ方針のもとに展開するサステナビリティ経営戦略が「Sustainable Smile Plan」です。その軸となるのは「サステナビリティ重点課題」であり、このたび再設定した2030年までの中長期目標*達成に向けて、事業を通じて取り組みます。また、各事業における新たな取り組みも推進し、イノベーションに基づく新たな社会価値の創出に努め、世界の人々の笑顔が溢れる持続可能な社会の実現を目指します。



* 2030年までの中長期目標：詳細はwebサイトでご確認ください。 [URL https://www.sapporoholdings.jp/csr/policy/systems/](https://www.sapporoholdings.jp/csr/policy/systems/)

Message

昨今、世界的な気候変動による異常気象など他にも様々な問題が数多く起こっています。

そこで、私共サッポログループが事業活動を通じてこの課題の特定と解決に向けての取り組みを進める事で持続可能な社会の実現と持続的なグループの成長を目指すため「サステナビリティ方針」を宣言しました。

当グループは自然の恵みにより事業を行っており、恵みを生みだす原点が「大地」です。その大地を最も重要なパートナーと捉え、社会課題と向き合いながら、事業

を進めてまいります。

サステナビリティ経営の推進にあたり、全てのステークホルダーの皆さまと「ともに」取り組み、事業活動を通じて「笑顔づくり」を実現することで「潤いを創造し豊かさに貢献する」という経営理念の実現につなげていきたいと考えています。



サッポロホールディングス
取締役
生方 誠司
(2019年12月31日現在)

「サッポログループ環境ビジョン2050」を策定

2050年を見据えた「サッポログループ環境ビジョン2050」を2019年12月に発表しました。サステナビリティにおける環境保全の目指す姿を定めたビジョンのもと、「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に向け、今まで以上に取り組みを推進していきます。

サッポログループ環境ビジョン2050

大地が育む自然の恵みに感謝し、サッポログループ社員一人ひとりが、積極的に環境保全に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

<脱炭素社会の実現>

- 自社拠点でのCO₂排出量ゼロを目指します。
- 自社拠点以外のバリューチェーンにおけるCO₂排出量削減に努めます。

<循環型社会の実現>

- グループ全体で、事業に関わる全ての資源の3R*に努めます。
- 循環型社会に対応した容器包装の100%使用を目指します。
 - 工場での水使用量削減に継続的に努めます。

<自然共生社会の実現>

- 大麦・ホップの研究開発を通じて持続可能な調達に貢献します。
- 持続的に自然と共生できる豊かな時間と空間を感じるまちづくりに貢献します。

* Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)の3つのRの総称

「サッポログループ容器包装ビジョン」を策定

2019年7月に「サッポログループ容器包装ビジョン」を発表しました。

本ビジョンに沿って、事業活動における容器包装の3Rの取り組みを加速させることで、持続可能な社会の実現を目指します。

2050年 長期ビジョン

循環型社会に対応した容器包装の100%使用を目指します。

<中期ビジョン>

- 容器包装のリデュース(軽量化・簡素化)を維持・拡大します。
- 再生可能材料の利用を拡大し、容器包装材料の枯渇性資源依存を低減します。
- 社外との連携・協調を深め、持続可能な循環型社会の構築に貢献します。



紙製飲料容器「カートカン」
2月10日発売

サステナビリティ重点課題への取り組み

「ホワイト物流」推進運動の 自主行動宣言を提出

サッポロホールディングスは、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に寄与することを目的とする「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、サッポロビール、ポッカサッポロフード&ビバレッジ、神州一味噌、サッポログループ物流の4社から物流の持続的・安定的な運営に向け自主行動宣言を提出しました。

食品ロス削減に向けて ビールテイスト製品の賞味期限延長

食品ロス削減やサプライチェーンでの作業効率改善、さらにはお客様により安心して商品をお楽しみいただくために、ビールテイストの缶製品・びん製品(一部製品除く)の賞味期限延長、および、製造時期表示の「年月旬」から「年月」変更を、2020年3月1日以降製造分から順次実施します。

サッポログループがAI技術を活用した ロジスティクス領域の 計画主導型システム導入

サッポログループは、AI技術を活用した商品需給計画システムの導入により、トラックドライバー不足、事業構造の多様化、業務の属人化といった諸課題を克服し、在庫の適正化、物流の平準化、ロジスティクス担当者の働き方改革を実現することで、グループの事業目標達成に向けての大きな役割を担います。

約束1 『酒・食・飲』による潤いの提供

レモン素材で顔のむくみ軽減効果を実証

サッポログループが注力する素材であるレモンにおいて、レモン幼果から抽出したポリフェノール「レモン由来酵素処理ヘスペリジン」の健康機能として「顔のむくみを軽減する効果」を臨床試験で実証しました。^{※1}



レモン素材で顔のむくみ軽減効果を検証したのは日本で初めてとなります。^{※2}日本では女性の7割以上がむくみを経験しており、さらに3人に2人以上の方がむくみに悩まされています。^{※3}食による日常生活の課題解決を目指して、健康機能に関する研究開発を進め、お客様の生活をより豊かにする健康食品および食品素材を提案していきます。

※1 東洋精糖(株)との共同研究。雑誌「薬理と治療」2019年47巻2号に掲載。

※2 当社調べ(2019年9月時点)

※3 当社調べ(2019年9月実施の日本人男女20~50代1094名を対象としたWebアンケートによる)

約束3 環境保全

仙台工場「緑化優良工場等 東北経済産業局長賞」受賞

サッポロビール仙台工場は、工場緑化を積極的に推進し、工場内外の環境向上に顕著な功績があったとして「2019年度緑化優良工場等東北経済産業局長賞」を受賞しました。

仙台工場は地域社会との共生を大切にする工場として、場内のピオトープ園を一般の方へ開放しており、清掃活動・環境保全など地域環境の取り組みも積極的に行っています。



4つの 約束

社会との共栄

約束2

復興大臣からの感謝状

東日本大震災の継続的な復興支援活動が高く評価され、復興庁の渡辺博道復興大臣から感謝状が贈呈されました。

2012年に「サッポロ東北未来プロジェクト」を立ち上げ、現地に赴き被災地で直接皆様のお話を伺いながら一緒に東日本大震災復興支援活動を継続して取り組んできました。

サッポロホールディングスは一日も早い復興を願い、これからも被災地に寄り添った復興支援活動を行っていきます。



個性かがやく人財の輩出

約束4

「がんアライアワード2019」受賞

サッポロビールとポッカサッポロフード&ビバレッジは、がんと就労問題に取り組む民間プロジェクト「がんアライ部」主催の「がんアライアワード2019」において、それぞれ「ゴールド」と「シルバー」を受賞しました。サッポロビールは、がん経験者の社内コミュニティ「Can Stars (キャンスターズ)」の発足が評価されて2年連続の「ゴールド」受賞、ポッカサッポロフード&ビバレッジは本年初エントリーで「シルバー」の受賞となります。サッポログループは、がんを経験した社員の思いを大切に、すべての社員の学びと成長につなげます。



サッポロ GOLD STAR 新発売

2020
2/4
新発売

★
サッポロビールの
技術と信念をつぎ込んだ新商品

2020年2月4日に発売した「サッポロ GOLD STAR (ゴールドスター)」は長い歴史とともに磨き続けてきた当社の二大ブランドである「サッポロ生ビール黒ラベル」と「エビスビール」の技術と信念をつぎ込み創り上げた商品です。

「サッポロ生ビール黒ラベル」で採用している「旨さ長持ち麦芽^{*1}」と「エビスビール」で採用している「ドイツバイエルン産アロマホップ^{*2}」を共に一部使用し、さらに、両ブランドの仕込方法である「ダブルデコクション法^{*3}」を採用することで理想の“力強く飲み飽きないうまさ”を実現しました。



ブランドサイトもぜひご覧ください。 [URI](https://www.sapporobeer.jp/goldstar/) <https://www.sapporobeer.jp/goldstar/>



SAPPORO

黒ラベルの麦芽



Premium
YEBISU

エビスのホップ

サッポロの金星。 GOLD STAR

- ※1 ビールの酸化を促進する酵素である「LOX-1(大麦リポキシゲナーゼ)」を持たない大麦(麦芽)であり、香味耐久性と泡持ちをアップさせる麦芽です。
- ※2 ドイツバイエルン産のホップは世界のホップ生産量の約3割を占める代表的な産地です。ホップは、ファインアロマホップ、アロマホップ、ビターホップの3つに分類することができ、約50%がアロマホップに分類されます。華やかで香りが強いことが特長とされています。
- ※3 ビールで用いられている伝統的な製法の一つで、仕込工程で煮沸を2回繰り返すため、より多くの時間と手間がかかります。煮沸を重ねることで、ビールに欠かせない飲みごたえや飲み飽きない後味を実現することができます。

新ジャンル市場の変化

新ジャンル商品は発売から15年以上が経過し、お客様の商品への「おいしさへの期待」は年々高まっており、2020年10月から始まる酒税改正の影響もあり、その期待は今後さらに高まることが予測されます。

サッポロビールは2019年8月にフルリニューアルをし、好評をいただいている「サッポロ 麦とホップ」に加え、おいしいことがより実感・確信できる「サッポロ GOLD STAR」の2つのブランドで異なるお客様のおいしさへの期待に応えていきます。

『ツートップ戦略』で
異なるターゲットにアプローチ

「サッポロ 麦とホップ」はお酒を飲み始めた時に新ジャンルがなかった主に50代～60代の“ビールに近い味わい”を求めるお客様、反面「サッポロ GOLD STAR」はお酒を飲み始めた時に新ジャンルがあった主に30代～40代の“信頼できる確かなモノ”を求めるお客様をターゲットに設定しています。

新ジャンル市場は今後新たなステージに向かっていきます。理屈ではなく、お客様が本当に“おいしい”と実感できることが求められるこれからの時代に、当社は「サッポロ 麦とホップ」と「サッポロ GOLD STAR」での『ツートップ戦略』で挑んでいきます。



関西初登場

GRANDE POLAIRE WINEBAR OSAKA オープン

2019
12/5
オープン


日本ワインのフラッグシップブランド「グランポレール」の関西初のアンテナショップ「GRANDE POLAIRE WINEBAR OSAKA」を2019年12月5日に大阪・梅田にある「ホワイティうめだ」のバル街「NOMOKA(ノモカ)」内にオープンしました。

「大阪にいながら4つの産地を旅する」をコンセプトとした同店は、日本の南北に広がる4産地(北海道・長野・山梨・岡山)のぶどうの個性が輝くグランポレールの多彩なラインアップはもちろん、各産地の食材を生かしたお料理とのマリアージュを気軽にお楽しみいただけます。

東京だけでなく大阪からも情報発信する環境が整い

ました。全国のお客様に広く当社の日本ワインの魅力をお伝えしていきます。



 GRANDE POLAIRE WINEBAR OSAKA
住所：〒530-0027 大阪市北区堂山町梅田地下街3-4
イーストモール「NOMOKA」内(06-6366-8788)
営業時間：11：00～23：00



海外(アンカー)

アメリカクラフトビール文化のパイオニア アンカー社商品販売開始

サッポロビールは、グループ傘下のアンカー社3商品を2020年3月3日に日本国内で販売開始します。

アンカー社は1896年にアメリカサンフランシスコで創業し、アメリカ最初のクラフトビール醸造所として120年以上の歴史を誇ります。

アメリカクラフトビール文化のパイオニアといわれるアンカー社の個性豊かな商品を販売することで、お客様の多様なニーズに応え、酒類文化の発展に貢献していきます。





カップ入りスープを製造する仙台工場が竣工・稼働開始

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、2019年8月にカップ入りスープの製造設備および粉末スープ顆粒原料の造粒設備を設置した仙台工場を新設し、竣工・稼働を開始しました。

当社には、これまで名古屋工場・群馬工場・磐田ポッカ食品(当社の100%連結子会社)と3つのスープ製造拠点が伸びるインスタントスープの需要に対応してきましたが、より市場に柔軟に対応し、さらなる積極的な事業展開を推進するため、新たな工場として仙台工場を設置し、カップ入りスープの自社生

産能力を高めます。工場は宮城県名取市にあるサッポロビール仙台工場内に新設することで、現設備のインフラの活用や、酒・食の技術知見の融合を図っていく等、サッポログループとしての資産を活用しシナジーを生み出していきます。仙台工場稼働で、より一層の事業の成長を目指します。



起動式



製造ライン



“本物の日本ブランド”を意識した無糖茶を展開

近年、シンガポールの飲料市場は、消費者の健康志向と、政府による砂糖量抑制の動きが相まって、無糖茶市場が伸長。また、日本の製品やサービスを理解し求める消費者も多いことから、日本茶を中心とした無糖茶のニーズは販路を問わず増加し、競合他社も注目している状況です。

そうした中、茶系飲料で圧倒的なシェアを誇るポッカは、健康志向をリードするブランドとして、現地他社が真似できない「本物の日本ブランドが作った無糖茶」をコンセプトとした戦略商品「ほうじ茶・煎茶」を上市しました。通常は現地デザイナーが担うパッケージデザインを、

日本のポッカサッポロデザインチームと連携し、日本人デザイナーが手掛けることで、より高いレベルの日本茶商品を印象付け、中味とともに視覚においても他社との差別化を行い、好評を得ています。

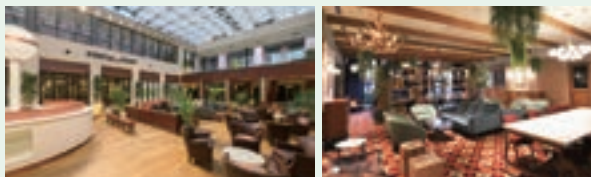
今後もグループとして、シンガポールや様々な国で喜ばれるものづくりを行っていきます。





コミュニティを醸成する 新しいワークプレイス誕生

開業25周年を迎えた複合商業施設「恵比寿ガーデンプレイス」では、2019年11月にガラススクエアの一部がコワーキングスペースを中心とした複合施設「PORTAL POINT -Ebisu-」に生まれ変わりました。地域住民や来街者も利用できるカフェ、イベントスペース、ポップアップストアなど、形にとらわれない新しいワークスタイルを提供するとともに、恵比寿エリアのさらなる地域活性化と、新たなコミュニティを創出する複合的なエリアとなりました。



写真提供(株)リアルゲイト

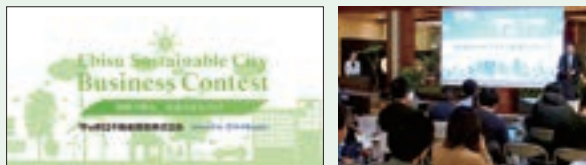
サッポロファクトリーリニューアル

複合商業施設「サッポロファクトリー」では、札幌市が進めている「創成川以東地区」の再整備計画に合わせ改装を進めており、2019年4月には隣接する新中央体育館、高層マンションと空中歩廊で接続された3条館2階および2条館2階をリニューアルオープンしました。同年11月には、2条館1階フロアが「キッズ&ファミリーゾーン」として生まれ変わり、多くの家族連れにお越しいただいています。



持続可能な地域社会の実現に向けた 新規事業ビジネスコンテストを開催

サッポロ不動産開発は、経営理念でもある「『まちづくり』を通じた『豊かな時間』と『豊かな空間』を創り、育む」ことを実現し、持続可能な地域社会の創造に貢献するため「持続可能な、未来のまちづくり」をテーマにしたビジネスコンテスト「Ebisu Sustainable City Business Contest(エビスサステナブルシティ ビジネスコンテスト)」を開催しました。本ビジネスコンテストでは、スタートアップ企業を中心とした社外の事業者より、計103件のご応募をいただき、書類選考・面談選考を経て選抜された8チームが、2019年12月に開催された最終審査会／ピッチコンテストに登壇しました。今後、本ビジネスコンテスト応募企業に対して、事業の成長性等を精査しながら協業の可能性を検討するとともに、SDGsの達成に向けても積極的に取り組んでいきます。



睡眠の質に関わる機能性表示食品 「スイッチ乳酸菌」いよいよ商品化へ

サッポログループではビール原料である大麦に由来するSBL88[®]乳酸菌の機能性研究を重ねてきました。なかでも睡眠の質に関わる、起床時の疲労感や眠気を軽減する機能については、大規模ヒト臨床試験でその効果を確認しました。2019年2月に設立した新会社サッポロウェルネスラボにて本研究成果の具体化を進め、機能性表示食品として、商品名「スイッチ乳酸菌」にて2020年4月より販売を開始します。睡眠に関する悩みをお持ちの多くの皆様に、睡眠の質を改善し、生き生きとした日常生活が送れますよう、サポートいたします。サッポログループの素材を初めて用いた機能性表示食品に、ご期待ください。

※ 菌株名 *Lactobacillus brevis* SBC8803



- ・届出表示：本品(スイッチ乳酸菌)には独自の*Lactobacillus brevis* SBC8803(SBL88)が含まれ、睡眠の質を改善(起床時の疲労感や眠気を軽減)する機能があります。
- ・食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。
- ・本品は、特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。
- ・本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

ビール製造技術発展における 長年の貢献 BCOJ功績賞受賞

サッポロホールディングス 顧問 渡淳二は、酵母に精通した専門家として、ビール製造技術の発展における国内外での貢献が認められ「BCOJ[®]功績賞(BCOJ Contribution Award)2019」を受賞しました。渡は、長年酵母研究に携わり、世界で初めて酵母の凝集性遺伝子(*FLO1*)のクローニングを行いました。また、著書「ビールの科学」(講談社)の出版をはじめとしたビールの文化啓発にも取り組んでおります。



※ Brewery Convention of Japan : ビール酒造組合 国際技術委員会

「交流高電界殺菌技術」が 農林水産技術会議会長賞受賞

ポッカサッポロフード&ビバレッジは「ポッカレモン100」の製造に導入している「交流高電界殺菌技術」[®]につ



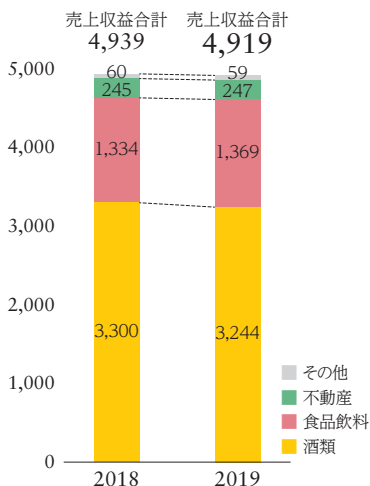
いて、革新的殺菌技術を利用した果汁製造ラインを実用化した点が評価され、農林水産省および(公社)農林水産・食品産業技術振興協会主催「令和元年度(第20回)民間部門農林水産研究開発功績者表彰 農林水産技術会議会長賞」を受賞しました。

※ 農研機構食品研究部門、(株)フロンティアエンジニアリングと共同で開発・実用化した業界初の殺菌技術。

事業の概況

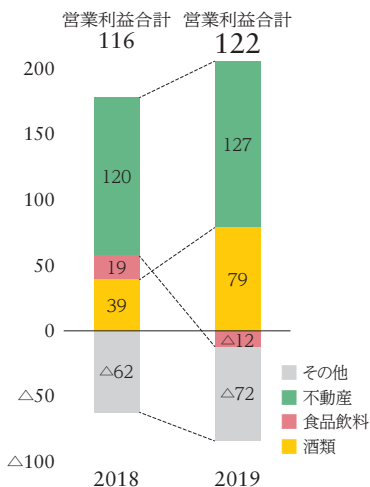
売上収益

(億円)*単位未満四捨五入



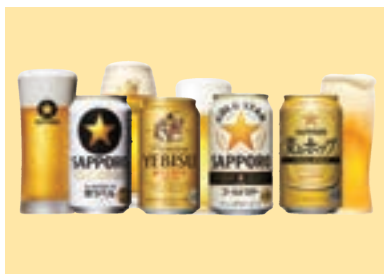
営業利益

(億円)*単位未満四捨五入



※ 非継続事業は数値から除いております。

酒類事業



売上収益

主力ブランドの「サッポロ生ビール黒ラベル」や、積極投資を行った「サッポロチューハイ 99.99<フォーナイン>」等が好調に推移しましたが、新ジャンルの売上数量が前期を下回ったことから減収となりました。

営業利益

国内のコストコントロール、商品ミックスの改善、および前期に計上したアンカー社の減損損失が当期には計上できなかったことにより、増益となりました。

食品飲料事業



売上収益

缶コーヒー市場の停滞や天候の影響を受け需要の落ち込みがあったものの、ヤスマ社の新規連結により増収となりました。

営業利益

国内の売上数量が減少した影響で減益となりました。

不動産事業



売上収益

主力物件の賃料収入が増加し、増収となりました。

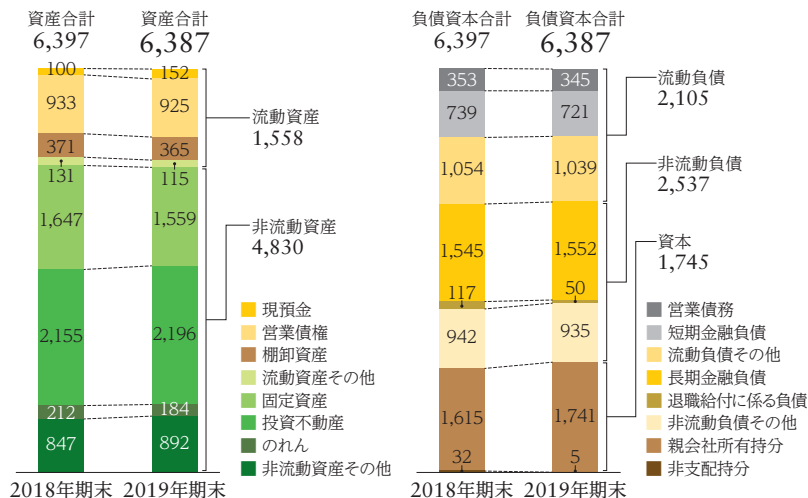
営業利益

主力物件の賃料収入の増加に加え、物件ポートフォリオの見直しによる不動産売却益が貢献し、増益となりました。

連結決算概要

★ 連結財務ハイライト (億円)*単位未満四捨五入

財務の状況



資産合計

保有する株式の株価上昇により金融資産が増加しましたが、Country Pure Foods, Inc. 売却の影響により減少しました。

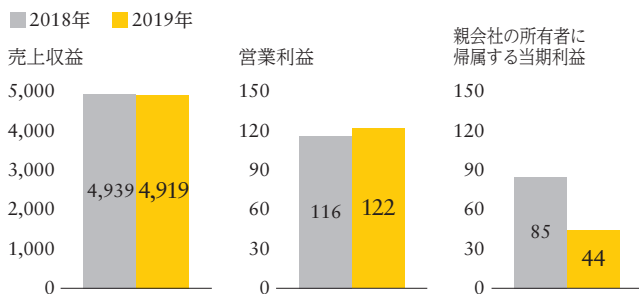
負債合計

有利子負債の返済が進み、減少しました。

資本合計

株式の含み益の増加、当期利益の計上により増加しました。

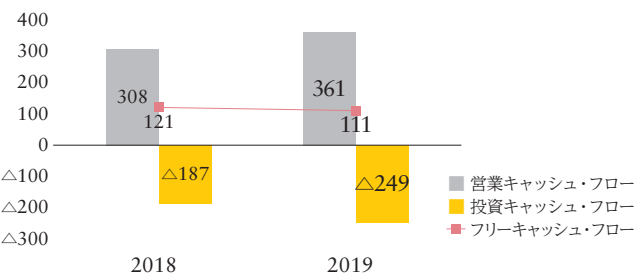
損益の状況



ポイント

Country Pure Foods, Inc.の株式譲渡に伴う非継続事業からの当期損失の増加により、親会社の所有者に帰属する当期利益は44億円（前期比42億円、49%減）となりました。

キャッシュ・フローの状況



営業活動によるキャッシュ・フロー

法人所得税等の支払額が減少したことで、前期と比較して52億円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資不動産の取得により、前期と比較して62億円の増加となりました。

会社情報 / 株式情報

★ 会社概要 (2019年12月31日現在)

商 号 サッポロホールディングス株式会社
(英文 SAPPORO HOLDINGS LIMITED)

設 立 1949年9月1日(創業明治9年)

資 本 金 53,887百万円

事 業 内 容 持株会社

本 社 〒150-8522
東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
(恵比寿ガーデンプレイス内)

★ 株式の状況 (2019年12月31日現在)

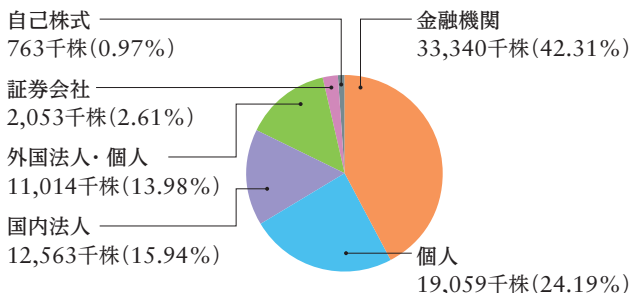
発行済株式の総数……………78,794,298株
株主数……………68,638名

★ 大株主 (上位10名及びその状況) (2019年12月31日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,520	8.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,100	3.97
資産管理サービス信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ信託銀行口	2,442	3.13
日本生命保険相互会社	2,237	2.87
明治安田生命保険相互会社	2,236	2.87
農林中央金庫	1,875	2.40
丸紅株式会社	1,649	2.11
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	1,594	2.04
大成建設株式会社	1,400	1.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,387	1.78

※ 持株比率は自己株式(763,242株)を控除して計算しています。

★ 所有者別株式分布状況



★ 役員 (2020年3月27日現在)

取締役(監査等委員である取締役を除く)	監査等委員である取締役
代表取締役社長 尾賀 真城	取締役 溝上 俊男
常務取締役 岩田 義浩	取締役(社外) 杉江 和男
取締役 福原 真弓	取締役(社外) 山本 光太郎
取締役 大平 靖之	グループ執行役員
取締役(社外) 鶴澤 静	常務グループ執行役員 高島 英也
取締役(社外) マッケンジー・クラフト	常務グループ執行役員 征矢 真一
取締役(社外) 福田 修二	常務グループ執行役員 三宅 祐一郎
	常務グループ執行役員 時松 浩
	グループ執行役員 松出 義忠
	経 理 部 長

株主メモ

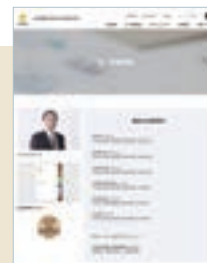
事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月
配当金受領の株主確定日	12月31日及び 中間配当を実施するときは6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 (フリーダイヤル)0120-288-324
公告方法	電子公告 https://www.sapporoholdings.jp/ ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します。

ウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトではIR情報や決算情報をはじめとした情報開示を行っております。



URL <https://www.sapporoholdings.jp/ir/>



株式事務に関するご案内

配当金の口座振込の制度をご存知ですか？

配当金を郵便局の窓口で
お受け取りの場合

- 受け取り忘れのリスクがあります。
- 郵便局へ行く手間がかかります。

配当金の振込指定の場合

ご指定の口座に振り込まれるため、配当金のお支払い開始日に安全かつ確実に配当金のお受け取りができます。

■ お手続きに関するお問い合わせ先

- 証券会社に口座をお持ちの株主様は、お取引口座のある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部へお問い合わせください。

特別口座からの振替のお手続きはお済みですか？

特別口座に記録された株式は、単元未満株式(100株に満たない株式)の買取・買増請求を除き、売買や譲渡等のお取引を行うことができません。特別口座に記録された株式の取引を行うためには、証券会社に取引口座を開設していただいたうえで、特別口座から証券取引口座に振替を行っていただく必要があります。特別口座から証券取引口座への振替をご希望の株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部へお問い合わせのうえ、お手続きをお願いします。

第96回 定時株主総会決議ご通知

2020年3月27日開催の第96回定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

記

報告事項

1. 第96期(2019年1月1日から2019年12月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第96期(2019年1月1日から2019年12月31日まで)計算書類報告の件

決議事項

第1号議案 剰余金の配当の件

本案は、原案のとおり承認可決され、期末配当は1株につき42円と決定しました。

第2号議案 定款一部変更の件

本案は、原案のとおり承認可決されました。なお、本案は、監査等委員会設置会社に移行するため、監査等委員である取締役及び監査等委員会に関する規定の新設並びに監査役及び監査役会に関する規定の削除等、所要の変更を行うものです。

第3号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く)7名選任の件

本案は、原案のとおり、取締役(監査等委員である取締役を除く)に尾賀真城、福原真弓、大平靖之、鵜澤静、マッケンジー・クラグストン、福田修二の6氏が再選され、新たに、岩田義浩が選任され、就任しました。なお、鵜澤静、マッケンジー・クラグストン、福田修二の3氏は社外取締役であります。

第4号議案 監査等委員である取締役3名選任の件

本案は、原案のとおり、監査等委員である取締役に溝上俊男、杉江和男、山本光太郎の3氏が選任され、就任しました。なお、杉江和男、山本光太郎の両氏は社外取締役であります。

第5号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

本案は、原案のとおり、補欠の監査等委員である取締役に飯塚孝徳氏が選任されました。なお、同氏は補欠の監査等委員である社外取締役として選任されております。

第6号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く)の報酬額設定の件

本案は、原案のとおり承認可決されました。

第7号議案 監査等委員である取締役の報酬額設定の件

本案は、原案のとおり承認可決されました。

第8号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く)に対する株式報酬等の額決定の件

本案は、原案のとおり承認可決されました。

第9号議案 当社株券等の大規模買付行為への対応方針承認の件

本案は、原案のとおり承認可決されました。

※各議案の詳細につきましては、当社IRサイトにてご確認くださいませようお願い申し上げます。

以上

エビスビール誕生130年



130年磨かれた

「金のコク」。



世界でいちばんおいしいビールを
日本で造る。

ビールの本場ドイツに学び、日本のビール黎明期から本格的なビールづくりにこだわってきたエビス。

日本のビール業界で新しいことにチャレンジし、100年以上前から世界で高評価を得るとともに様々な足跡を残してきました。

近年では、日本にプレミアムビールという新しいカテゴリーを構築し、世界の本格的なビールタイプをはじめ、様々なビールの楽しみ方を日本の皆様に提供しています。

130年にわたるエビスの歩みは
日本のビール文化の歩み。

エビスはこれからも、新しいことにチャレンジし、お客様に新しいコト・モノを提供することで、お客様ひとりひとりの時間や空間を彩るブランドであり続けます。

130年の歴史に裏打ちされた、エビスならではの多様な味わい。



エビスビール



エビス プレミアムエール



琥珀エビス



エビス プレミアムブラック

誕生130年を記念し、様々な情報発信やブランド体験創出に取り組んでいきます。
最新情報は以下、公式ホームページをご覧ください。

[URL https://www.sapporobeer.jp/yebisu/](https://www.sapporobeer.jp/yebisu/)



発行者：サッポロホールディングス株式会社
〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号(恵比寿ガーデンプレイス内)